# 学び続ける先生方２０２３②

令和５年１１月２９日（水）に「第２回 聖籠町中学校授業づくり研修会」が聖籠中学校で行われました。

今回も新潟市立白新中学校の田村友教様を講師にお招きし、５月にご講演いただいた授業づくりを基に、２年生数学の授業を大滝教諭が公開しました。単元は「図形の性質の調べ方」で、既習事項を根拠にいろいろな図形の角度を求め、それを証明する学習内容でした。生徒の「～したい」という思いを引き出させるように工夫されており、様々な考えを出し合いながら課題を解決する「主体的、対話的で深い学び」につながる授業でした。

協議会では、「大滝先生の授業から学ぶ」として、「『個別最適な学び』の実現に向けた取組は有効であったか。」「『聖籠インクルーシブ（協働的な学び）』の実現に向けた取組は効果的だったか。」について、ファシリテーション形式でグループ協議が行われ、活発な意見交換がなされました。

ご指導では、「主体的・協働的な問題解決の授業づくり～子供が能動的に学ぶための必要条件～」（引用：南万代小学校　平山誠　先生）を基にお話をいただき、考えたくなる強い動機づけのある「問い」であったことや、授業のゴールが明確な「めあて」や「課題」であったこと、そして、単元の中で考える足場を積み上げてきている授業であったこと等、生徒が能動的に学ぼうとする工夫があったことが評価されました。また、安心して自分の意見が言える支持的風土がある学級であったことで「学び合い」が深まり、様々な考えが出ることにつながったし、自由に表現できる雰囲気は聖籠中学校が目指している「インクルーシブ教育」につながっているのではないかというお話でした。さらに、教師として「教科の専門性・授業づくり」「授業スキル」「授業者の個性（強み）」の３つが大切であり、今後も研修を重ねていくことで、それぞれの力をスキルアップしていきましょうとご指導をいただきました。

参加された先生方からは、今回の研修で学んだこととして、「単元構成の大切さ、やってみたいと思う学びのゴール、学びの舞台が大切」「生徒の解決意欲を促す課題作成と授業構成」「課題の精選と生徒がつくる授業づくり」等があげられ、自分の授業を振り返る良い機会となり、今後の授業力アップのためにも実りある研修会でした。